

(8) 栃木県宇都宮市の富井鉦山一追記

富井鉦山については、本鉦山探査記で既報である。現地の現在の様相は、かつてここが鉦山であったのかを思わせるものは、殆ど失せてしまっている。が、富井鉦山は「紫水晶」を産出したことで知られているようである。鉦山が稼業していた時に、坑内から産出したものであろう。が、鉦山敷地外の場所でも紫石英擬きが採集できたことは、著者自身確認していた。既報の探査記で「大同坑沢」について触れていた。何度かこの沢を探索した結果、大同坑沢を登り上がった、本山の北面近傍に、多数の坑口跡、露天掘り跡を確認したので、富井鉦山の追記として報告をする。現地の状況から判断すると、これらの坑口等は、富井鉦山として開削されたものではなく、それ以前の時代に、金鉦山として掘られたもののようである。

現地への経路は次の通りである。宇都宮方面からならば、日光街道（119号）を北上し、進行方向が西向きになった当たりで、右折し、77号に入り北上していく。右折してから、大凡3km弱の当たり、左手にある郵便局の少し先で、道路左側にNTTの中継局、右手には登り気味の側道がある。この側道に入っていく。サーキット場を左手に見て、林道を直進していく。側道に入ってから大凡1km強のあたりに、広い空き地があり、車を駐車する。これより先は徒歩となる。

数年前、そして2015年4月探査



図1 国土地理院の地図サービスより複写掲載。「富井鉦山跡」、「ハルナ山」、「男山」の文字を書き足している。赤矢印が経路。その先の「P」は駐車場。大きな赤丸のあたりに多数の坑口跡がある。右上の付近で、黄緑色丸で示した、林道の直ぐ脇に、立派な坑口跡がある。林道を車で進んでいくと、左手にある。何のために開削したのであろうか？ 参考文献(1)の地質図を見ると、富井鉦山から東昭鉦山方向に、鉦脈が延びている。そのための坑口だったと思われる。ということは、この緑丸の付近に、何らかのズリがあると思われる。が、確認はしていない。東昭鉦山については、本探査記で既報である。

「本山」はハイキングコースに入っている。こどものもり公園から登っていける。この登山コースを辿り、「男山」と「本山」の尾根の中間付近でしっかりした坑口跡（後掲の写真で紹介）と、プラト一部擬きの箇所にある潰れたような坑口跡を見つけている。

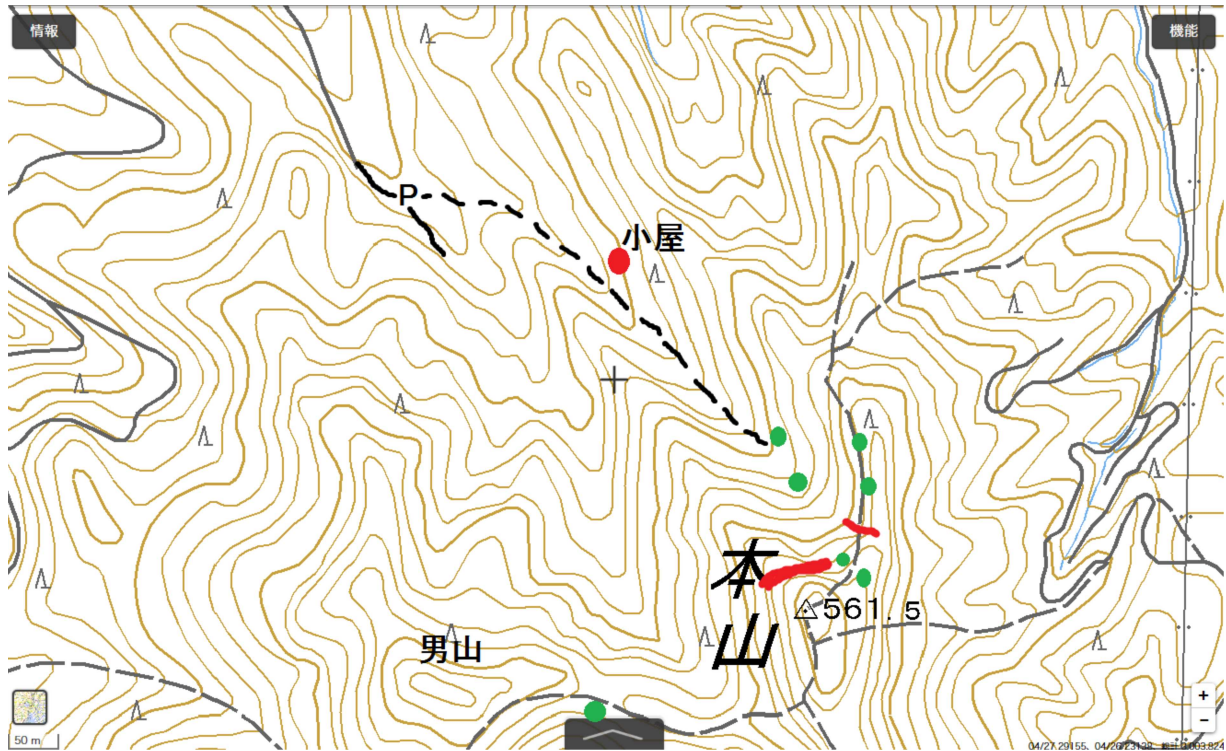


図2 図1の部分拡大図。Pは駐車場。ここから大凡のルートを書き入れている。明瞭な一本道があるわけではない。赤丸は廃屋（後掲の写真参照）。指標とはなる。沢に沿って登り上がるのが確実か。黄緑丸は確認した坑口跡。記録忘れもあったので、尾根上近傍にはもっとあったようである。赤線分は露天掘り跡。本山直下の露天掘りは一見の価値がある。
 これら坑口跡には、こどものもり公園からのハイキングルートで、「本山」への直前でルートを外れ、左手側に山裾を進めば、簡単に露天掘り跡にはたどり着ける。

鉱山跡写真



写真1 77号を北上してきた。左にNTTの中継局。右手には、コンクリートの側壁で見えにくい、側道がある。入口に「学校林入口」の看板が立っている。この側道に入っていく。



写真2 林道を登ってきた。図1, 2中の「P」の所である。このあたりに駐車ができる。この先で林道は2つに分岐している。左側が現地へのルートである。



写真3 写真2から少し先に進んだ。右からの沢と、正面からの小さな沢が合流し、1つとなって、正面林道の下を左に流れ下っている。正面の林道を沢に沿って進んでいく。この先の林道は、適当に分岐していたり、ブルドーザーで開削した林道が入り交じっている。現地への確かな経路は、沢に沿って登って行くことである。



写真4 沢を登ってくると、この廃屋は左手に見える。これは目印となろう。これより先、ブル道がジグザグに山の斜面に掘り開かれている。



写真5 沢を登ってきた。ブル道の終点でもある。プラトーの場所の山側に、「坑口の入口」を示している石垣組があった。なを、「真」の坑口跡は確認していない。入口の前に延びている木の太さが時間の流れを感じさせる。



写真6 写真5の坑口跡に向かって、右側の方にあった。潰れた坑口跡。



写真7 本山北側の尾根付近にあった坑口の1つ。この他に、幾つもの坑口があった。縦坑もあるので注意すること。

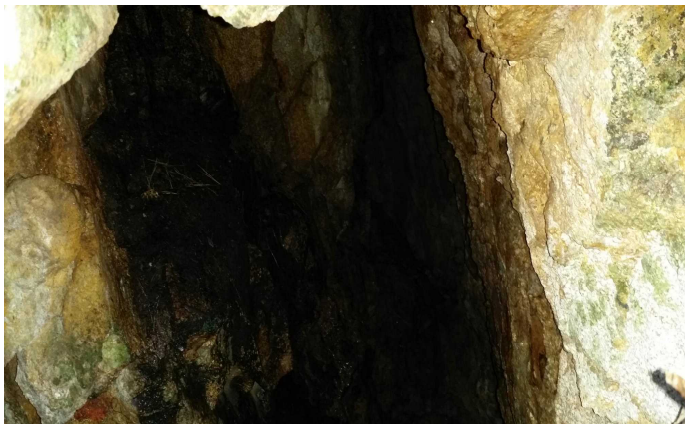


写真8 写真7で示した坑口の内部の様子。



写真8 「本山」頂上。大同坑沢を上り詰めて坑口跡に達し、大きな露天掘り跡まで来たならば、この頂上までは直ぐなので、登頂を勧める。この頂上には、こどものもり公園からのハイキングルートがある。登山案内書を参考にするとよい。



写真9 「本山」頂上の北側少し下にあった露天掘り跡。
露天掘り部の西端より、東側を見る。幅は2 m前後、長さは
100 m以上、深さは？



写真10 露天掘り跡の東端より西側を見る。白い部分
は残雪である。付近にはプラトー部、そして坑口跡らしいの
もあった。



写真11 こどものもり公園から
の登山ルートで、「男山」と「本
山」の中間付近の尾根にあった坑口
跡。左下の黒い四辺形。鉱脈に沿っ
て露天掘りしたようである。近傍の
木に案内板があった。注意していれ
ば、登山道から確認できる。

鉱物写真



写真 沢を登りながら探査をし、見つけた紫石英擬きの塊。中央の白っぽい部分。この先の上の方には、紫水晶があるのであろうか？

参考文献

(1) 「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。